

平成29年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市大宮学園
条例上の設置目的	児童福祉法(昭和22年法律第164号。)第6条の2の2第1項に規定する障害児通所支援を行う
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	障害児療育の専門性を高め、質の高い療育を提供し、心身の健やかな発達や集団生活への適応を支援すること。
ミッション (施設の社会的使命や役割)	心身に障害のある児童または心身の発達に遅れのある児童に対し、日常生活における基本的な動作の指導及び集団生活への適応訓練を行うこと。
制度導入により見込まれる効果	指定管理者制度導入により、市民サービスの向上と管理経費の縮減の効果を見込んでいます。
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートにおける利用者満足度
数値目標※	① 定員充足率9割以上 ② 利用者アンケートにおける満足度9割以上
所管課	保健福祉局高齢障害部障害福祉サービス課

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人千葉市社会福祉事業団
主たる事業所の所在地 (代表団体)	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日(5年)
選定方法	非公募
非公募理由	次の理由により、公募の方法によらず千葉市社会福祉事業団を指定管理者とした。 (1) 専門性の高いスタッフの確保 医師や専門職によるサービスの提供が求められるため、専門性が高く、スタッフの確保が困難である。 (2) 利用者等との信頼関係 利用者及びその保護者と現在の指定管理者との信頼関係が構築されている。 (3) より質の高いサービス提供 これまでの経験を踏まえた、より質の高いサービス提供が期待できる。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

成果指標	数値目標※	H29年度実績	達成率※
施設利用者数	定員充足率90%以上	定員充足率79.6%	88.44%
利用者アンケートにおける利用者満足度	満足度90%以上	満足度91.8%	102.0%

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

(2) その他利用状況を示す指標

指標	H29年度実績
施設利用者数	延べ 12,164人

4 収支状況

(1) 必須業務収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費目		H29年度	H28年度	計画実績差異・要因分析		
				差異	主な要因	
指定管理料	実績	276,085	271,674	実績－計画	△ 4,362	人件費不用額市返納
	計画	280,447	283,752	計画－提案	△ 15,444	市による査定
	提案	295,891	288,868			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	3,823	11,219	実績－計画	3,823	サービス区分間繰入金による
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	279,908	282,893	実績－計画	△ 539	
	計画	280,447	283,752	計画－提案	△ 15,444	
	提案	295,891	288,868			

イ 支出

(単位：千円)

費目		H29年度	H28年度	計画実績差異・要因分析		
				差異	主な要因	
人件費	実績	200,957	200,414	実績－計画	△ 8,254	人事異動、育休1名
	計画	209,211	209,420	計画－提案	△ 10,930	市による査定
	提案	220,141	212,987			
事務費	実績	11,062	12,001	実績－計画	△ 810	本部経費按分類変更
	計画	11,872	12,779	計画－提案	△ 203	本部経費按分類変更
	提案	12,075	13,091			
事業費	実績	17,002	15,804	実績－計画	△ 154	各費目において節減
	計画	17,156	17,969	計画－提案	△ 1,927	水道光熱費削減
	提案	19,083	18,941			
委託費	実績	36,322	35,906	実績－計画	△ 100	契約差金
	計画	36,422	36,422	計画－提案	△ 676	
	提案	37,098	36,422			
その他	実績	4,652	12,183	実績－計画	△ 33	
	計画	4,685	6,218	計画－提案	△ 1,865	人事異動による退職給付積立変動
	提案	6,550	6,483			
本社費・共通費	実績	10,719	5,806	実績－計画	9,618	拠点区分間繰入金支出増加
	計画	1,101	944	計画－提案	157	
	提案	944	944			
合計	実績	280,713	282,114	実績－計画	266	
	計画	280,447	283,752	計画－提案	△ 15,444	
	提案	295,891	288,868			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

千葉市社会福祉事業団の各事業（指定管理事業、委託事業）予算額に応じて按分。

(2) 収支状況

(単位：千円)

		H29年度	H28年度
必須業務	収入合計	279,908	282,893
	支出合計	280,713	282,114
	収支	△ 805	779
自主事業	収入合計	0	0
	支出合計	0	0
	収支	0	0
総収入		279,908	281,335
総支出		280,713	280,556
収支		△ 805	779
利益の還元額			
利益還元の内容			

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
定員充足率9割以上	C	
利用者アンケートにおける満足度9割以上	C	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
 A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）
 B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）
 C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満
 D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満
 E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	B	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
 A：選定時の提案額から10%以上の削減
 B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減
 C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減
 (D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)
 -：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	自己評価	市の評価	特記事項
1 市民の平等利用の確保・施設の適正管理	C	C	・千葉市大宮学園設置管理条例及び管理規則に基づき、適切に施設管理を行った。 ・危機管理計画・事故対応マニュアル等を整備した。 ・毎月避難訓練を実施した。
市民の平等利用の確保			
関係法令等の遵守 リスク管理・緊急時対応			
2 施設管理能力			
(1) 人的組織体制の充実	C	C	・必要な職員数を安定的に確保した。 ・職場内研修及び外部研修等の受講を推進した。
管理運営の執行体制			
必要な専門職員の配置 従業員の能力向上			
(2) 施設の維持管理業務	C	C	・日常点検・定期点検を適正に実施した。
施設の保守管理 設備・備品の管理・清掃・警備等			
3 施設の効用の発揮			
(1) 幅広い施設利用の確保	C	C	・設置管理条例及び管理規則に基づき、開館時間及び休館時間を遵守した。
開館時間・休館日 利用料金設定・減免 利用促進の方策			
(2) 利用者サービスの充実			
利用者への支援 利用者意見聴取・自己モニタリング	C	C	・各ルームにおいてアンケートを年2回実施した。 ・意見箱を常置した。
(3) 施設における事業の実施	C	C	・自主事業として継続して実施している通園児兄弟・姉妹預かり事業の利用者数が増加した。 H28：95→H29：123
施設の事業の効果的な実施 自主事業の効果的な実施			
4 その他			
市内業者の育成 市内雇用への配慮 障害者雇用の確保 施設職員の雇用の安定化への配慮	C	C	・積極的に市内業者を利用した。

【評価の内容】

- A：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
 D：一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
 E：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
管理運営については、今後もサービス内容の多様化に取り組んでいただきたい。	平成28年度	今後も様々なニーズに対応できるよう鋭意努力します。

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

実施内容	調査方法	各施設にてアンケート用紙を保護者に配布し、施設利用時に回収（年2回）
	回答者数	延べ298名
	質問項目	・職員対応について ・保育(療育)内容について ・個別面談について ・学習会・お話し会について ・個別指導について等
結果	ア ひまわりルーム(福祉型児童発達支援センター)	<p>前期配布数42、回答数40 回答率95.2%</p> <p>(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う35人(88%)そう思う5人(12%)どちらでもない0人(0%)</p> <p>(2) 療育内容は合っていたか:とてもそう思う25人(63%)そう思う14人(35%)どちらでもない1人(2%)</p> <p>(3) 個別面談は適切だったか:とてもそう思う27人(68%)そう思う11人(27%)どちらでもない2人(5%)</p> <p>(4) 保護者向け学習会は参考になったか:とてもそう思う19人(48%)そう思う18人(45%)どちらでもない3人(7%)</p> <p>後期:配布数42、回答数38 回答率90.5%</p> <p>(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う31人(82%)そう思う7人(18%)どちらでもない0人(0%)</p> <p>(2) 療育内容は合っていたか:とてもそう思う23人(61%)そう思う14人(37%)どちらでもない1人(2%)</p> <p>(3) 個別面談は適切だったか:とてもそう思う20人(53%)そう思う18人(47%)どちらでもない0人(0%)</p> <p>(4) 保護者向け学習会は参考になったか:とてもそう思う21人(55%)そう思う14人(37%)どちらでもない3人(8%)</p>
	イ たけのこルーム(医療型児童発達支援センター)	<p>前期配布数19、回答数14 回答率73.7%</p> <p>(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う5人(36%)そう思う8人(57%)どちらでもない1人(7%)</p> <p>(2) 保育内容について</p> <p>1) 午前保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う7人(50%)そう思う6人(43%)どちらでもない1人(7%)</p> <p>2) 午後保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う4人(29%)そう思う4人(29%)どちらでもない2人(14%) 無回答4人(29%)</p> <p>3) 分離保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う2人(14%)そう思う2人(14%)どちらでもない2人(14%) 無回答8人(58%)</p> <p>4) 個別支援計画は納得できたか:とてもそう思う5人(36%)そう思う5人(36%)どちらでもない1人(7%) 無回答3人(21%)</p> <p>(3) 個別指導(PT・OT・ST・心理)は満足だったか:とてもそう思う7人(50%)そう思う4人(29%) どちらでもない2人(14%)無回答1人(7%)</p> <p>(4) 保護者向け学習会は参考になったか:とてもそう思う5人(36%)そう思う2人(14%)無回答7人(50%)</p> <p>後期配布数23、回答数20 回答率87.0%</p> <p>(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う12人(60%)そう思う8人(40%)</p> <p>(2) 保育内容について</p> <p>1) 午前保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う9人(45%)そう思う10人(50%)どちらでもない1人(5%)</p> <p>2) 午後保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う5人(25%)そう思う8人(40%)無回答7人(35%)</p> <p>3) 分離保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う1人(5%)そう思う5人(25%)どちらでもない1人(5%) 無回答13人(65%)</p> <p>4) 個別支援計画は納得できたか:とてもそう思う7人(35%)そう思う9人(45%)どちらでもない1人(5%) 無回答3人(15%)</p> <p>(3) 個別指導(PT・OT・ST・心理)は満足だったか:とてもそう思う8人(40%)そう思う8人(40%) どちらでもない2人(10%)無回答2人(10%)</p> <p>(4) 保護者向け学習会は参考になったか:とてもそう思う4人(20%)そう思う8人(40%)どちらでもない1人(5%) 無回答7人(35%)</p>

ウ たけのこルーム(児童発達支援事業)

前期配布数133、回答数100 回答率75. 2%

(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う68人(68%)そう思う30人(30%)どちらでもない2人(2%)

(2) 療育内容について

1) 療育内容は合っていたか:とてもそう思う50人(50%)そう思う48人(48%)どちらでもない2人(2%)

2) 個別支援計画は納得できたか:とてもそう思う57人(57%)そう思う35人(35%)どちらでもない3人(3%)

無回答5人(5%)

(3) STや指導員のお話し会は満足だったか:とてもそう思う38人(38%)そう思う34人(34%)どちらでもない4人(4%)

未参加19人(19%)無回答5人(5%)

後期配布数154、回答数108 回答率70. 1%

(1) 職員の対応は適切だったか:とてもそう思う78人(72%)そう思う30人(28%)

(2) 療育内容について

1) 療育内容は合っていたか:とてもそう思う64人(59%)そう思う41人(38%)どちらでもない3人(3%)

2) 個別支援計画は納得できたか:とてもそう思う64人(59%)そう思う41人(38%)どちらでもない3人(3%)

(3) STや指導員のお話し会は満足だったか:とてもそう思う42人(39%)そう思う40人(37%)どちらでもない5人(5%)

未参加14人(13%)あまりそう思わない2人(2%)無回答5人(4%)

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

主な意見・苦情	指定管理者の対応
ひまわりルームの園生玄関施錠時間を明確に掲示してほしい。	平成28年度より、安全管理上の理由で療育時間内はひまわりルーム園生玄関を施錠し、不審者対応に努めているが、保護者より周知依頼を受け、親子通園や保護者会の機会に口頭にて説明した。また、おたよりにも開閉時間と施錠時間帯の来所場所の案内を行い、周知徹底を図った。
家族参観日、親子遠足などの行事は、兄弟を保育園に預けられる土曜日に実施してほしい。	運動会、劇発表会は土曜日に実施した。平成29年度より家族全員(兄弟も一緒)で参加できる家族遠足は日曜日、それ以外の行事は土曜日開催を予定している。
職員の方ともう少しお話しできる時間があると嬉しいです。	お話し会の頻度については、ST(言語聴覚士)相談会や心理判定員と指導員によるお話し会を実施し、保護者の子育てに関する不安の低減を図るとともに、保護者同士の情報交換を行った。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

総括 評価	C	施設全般 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に沿って概ね計画どおり運営できた。 ・施設維持管理については法令等に基づき点検等を実施し、必要に応じ順次修繕を実施し、利用児が安全かつ快適に施設利用できる状態を維持した。 ひまわりルーム <ul style="list-style-type: none"> ・療育の結果、多様な環境や他児との関わりの中で生活することが好ましいまでに成長した児童に対し、安心して地域の保育所・幼稚園に移行できるよう、移行に関心のある保護者に対して、移行後の見通しや自信が持てるよう保育所等の生活を親子で体験出来る機会を複数回設定したり定期的実施している「近隣保育所・幼稚園児童との保育交流」での児童の様子を伝える等、保護者からの相談に応じ、面談も随時実施する等必要な情報提供や移行支援に努めた。 ・年少、年中児の保護者を対象に移行支援プログラムの一環として、幼稚園協会並びにこども未来局幼保運営課に講師を依頼して「千葉市の幼稚園・保育所の統合保育の現状について」の講演会を実施し情報提供を行うなど移行支援の充実に努めた。結果、平成29年度は幼稚園3人、保育園1人、計4人の児童が移行した。 ・医療的ケアを必要とする知的障害児に対する支援については、平成29年度1人の児童の受け入れを行い、家族や関係機関と連携して必要な支援に努めた。 たけのこルーム <ul style="list-style-type: none"> ・医療型児童発達支援センターは、医療的ケアについて総合的な理解の向上を図るために、千葉リハビリテーションセンターを訪問し看護師や栄養士、保育スタッフと情報交換を行った。そして分離保育時に可能な医療的ケアの項目として、胃瘻からの食事注入を追加した。 ・4歳児・5歳児を対象として、保護者と離れ他の大人と過ごす経験を積むための分離保育を引き続き実施した。 ・児童発達支援事業においては、年間利用延べ人数が前年度2,607人から2,536人となり、やや減少した。登録者数は前年度154人から157人とほぼ変わらなかった。 ・児童発達支援事業においては、利用児が通っている保育所・幼稚園等に職員が出向き、児への関わり方や支援の方法について情報の提供をするなど、引き続き連携強化に努めた。また、引き続き療育時間以外にも保護者からの相談等に可能な限り対応して保護者支援に努めた。
----------	---	---

(2) 市による評価

総括 評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき適切に管理運営を行っている。 ・通園児兄弟・姉妹預かり事業において、書面や口頭での保護者への周知を積極的に行い、利用者が増加した。 (平成28年度95件→平成29年度123件) ・ひまわりルームにおいて、幼稚園等へ移行を希望している保護者への移行支援を行い、4名が幼稚園等へ移行した。 ・たけのこルーム医療型児童発達支援センターにおいて、分離保育時に可能な医療的ケアの項目として胃瘻からの食事注入を追加した。 ・特別支援学校や保育所等関係機関との連携を深めた。
----------	---	---

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、本部会に提出された財務諸表等の資料を確認した範囲では、倒産や撤退等のリスクは認められず、特段の問題はないと認められる。
- ・管理運営については、概ね適切に管理が行われている。